

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6年 3月 29日

事業所名 放課後等デイサービス はっぴい

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			活動内容や障害特性に応じて個室と広い活動スペースを活用するなど工夫している。	同時に個室利用の児童が重ならないように、集団活動と個別活動を組み合わせるよう配慮を安心して活動出来る工夫が必要。
	2	職員の配置数は適切である	7			個別の活動と集団活動それぞれに支援員が適切に配置できるように工夫している。	複数の学校への送迎が重なる時間帯は、活動室内の支援員が少なくなるため、早めに通所している児童の活動に配慮が必要。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7			様々な障害特性に対応出来るよう環境を整えている。	設備を活かして支援ができるように支援技術を研鑽する必要がある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6	1		PDCAサイクルに基づき、日々の支援の振り返りをすると共に定期的な話し合いに支援員全てが参加している。	業務内容を検討するための話し合いを適宜行い、職員の意見を改善に繋げるよう努める。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	1		保護者の意向、希望をアンケートにて把握し、その内容を支援員間で共有し支援内容の見直しや改善に努めている。	アンケート結果を受けて、次年度の業務改善に努めている。 未解決である課題を整理し具体的な方法を検討していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7			毎年、HP及び紙面にて公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			7		第三者による外部評価が未実施のため、業務改善のために実施する必要あり。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			各職員がオンライン研修や少人数での研修会に努めて参加した。 また、事業所内において研修会を実施し支援に繋げている。	今後も定期的に様々な分野毎の研修に参加する機会を確保していく必要がある。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	1		利用児童の状況を把握した上で保護者との面談を実施し、内容を情報共有した上で個別支援計画書を作成している。	児童の発達段階に合わせ、適切なアセスメントに基づいた計画書を作成する必要がある。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1		FIMやICFなどのアセスメントツールを使用し、定期的な評価を行っている。	大まかな日常生活動作を把握するためのアセスメントツールを使用している。今後更に、より具体的な状況を把握するためのアセスメントツールを使用していきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7			日々の打合せや毎月の話し合いにおいて、児童の状況を見ながらチームでプログラムを修正、立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	1		集団活動、個別活動など、児童の参加状況や個別課題を定期的に見直し活動プログラムを立案している。	児童によっては活動が固定してしまいがちであり、適宜活動の幅を広げるよう活動内容を工夫する必要あり。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	1		平日利用の際は時間が短く限られた活動になる場合がある。 長期休暇中などは調理、外出など普段できない活動を提供している。	長期休暇中は特に様々な経験を積み重ねられるよう調理や外出など様々な活動を提供し、平日は児童の状況を評価した上で課題を設定して活動を提供するよう努める。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	1		子どもの興味・関心や発達段階に応じた個別活動と集団活動を提供している。	児童の特性によっては、個別活動が主になる場合もあるため、部分的に参加できるような集団活動を立案していくよう努める。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			毎日打合せを実施し、活動の提供、支援について支援員全てが確認し役割分担が出来ている。	日々、前日の児童の状況を振り返り、詳細な打ち合わせと業務分担を確実にし、児童に必要な支援を提供出来るように工夫をする必要がある。

関係機関や保護者との連携	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7			全支援員が参加できる時間を設定し前日の支援の振り返りを行い、変化や気付いた点について情報共有している。	緊急に話し合うべき内容についてはその日の内に検討し、全支援員が揃う朝の打ち合わせにて、児童の状況を把握し検討する必要あり。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			日々の支援内容について詳しく記録をしている。	支援の内容及び児童の状況を詳細に記録し適切な支援が提供出来ているかを検証に繋げる必要がある。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7			実施記録表に基づき、定期的にモニタリング・話し合いを実施している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	6	1		本人の希望する活動を引き出しながら活動提供しており、定期的に新しい活動を複数組み合わせ合わせて提供している。	ガイドラインにある基本活動を参照し、活動が固定化しないように組み合わせた活動を提供出来るよう努める。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7				
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	7			担任の先生と密に情報交換をしたり、電話やメールなどで緊急時には連絡を取っている。	情緒面の不安定さのある児童について、共通理解をして対応できるよう日々の引継ぎや情報共有を密にできるよう努めたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		6	1		現在、医療的ケアが必要な児童の受け入れはないが、てんかん発作時の対応については、家庭、学校との情報交換、共通した対応の確認に努める必要あり。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	1		相談支援事業所を介して情報提供を求めたり、直接話し合いにて情報共有をしている。	関係機関と連携を取る機会を多く設定し、情報共有が出来るよう事前に会議などの場を設ける必要がある。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7			移行前に支援会議が開かれる場合には、情報提供をしている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1		専門機関より派遣職員を依頼し、助言及び研修を受けている。	利用児童の状況に応じて適切な支援が実施できるよう、専門機関と定期的に連絡を取り合う必要がある。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1		6		現在は実施できていないため、児童・家族の意向を聞いた上で検討していく必要がある。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	1		6		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	1		送迎時や電話にてその日の様子や家庭での状況について情報共有し、課題への共通認識の理解に努めている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6	1		個別面談の中で必要に応じて聞き取り適宜助言をしている。	ペアレント・トレーニングとしてまだ不十分な点があるので、必要な助言が出来るようスキルアップに努める。

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			契約の際に詳しい説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1		定期的な面談を実施したり、送迎の際に相談に応じている。	適宜、適切な助言が出来るよう研修に参加したり自己研鑽を重ね知識を深めるよう努める。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		2	5		保護者同士の交流の場が少ないため、今後意向を確認しながら検討したい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	1		寄せられた意見に対しては速やかに適切に対応するよう努めている。	苦情を受けた場合には、速やかな説明を行うよう努める必要あり。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	1		季節ごとに通信を作成し、活動内容や取り組みについて発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	7			SNS投稿のための保護者への同意を取った上で個人特定がされないよう配慮した投稿をしている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			利用児童の特性に十分配慮し、スケジュールやカードなどを用いたり、連絡帳を活用している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	1	1	母体となるめぐみ園の行事には地域住民を招待しているが、事業所単独での行事には招待していない。	地域住民との交流が出来るような行事の立案を検討する必要あり。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	1		各種マニュアルを定期的に見直し策定している。	事業所内にマニュアルを提示し、それに基づき保護者にも丁寧な説明が必要。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	1		年2回、避難訓練を実施している。	様々な災害に対する各種訓練を定期的実施していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7			職場内・外の研修に参加している。	園内研修に全ての支援員が参加している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7			やむを得ず身体拘束を行う場合について計画書に記載すると共に、保護者には詳しく説明をしている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	2	1	アレルギーを持った児童に対しては、学校・医療との連携を取り、指示書に従って対応を取っている。	アレルギーの状況について状況を確認し、学校、家族との連携を取る必要がある。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	1		ヒヤリハット報告書に記載し、全支援員が情報を共有し支援の振り返りに繋げている。		